

## 熱帯雨林保全のために、 定地型有機農業の普及を支援しています。



左上 )実りをつけた稲穂( パプアニューギニア )  
右上 )陸稲の田植え( ソロモン諸島 )  
右中 )収穫を喜ぶ子ども( パプアニューギニア )  
左下 )肥料作り( ソロモン諸島 )  
右下 )養豚小屋( ソロモン諸島 )

パプアニューギニア・ソロモン諸島では焼畑が広く行われています。

伝統的な焼畑は自然の循環の中で行われていましたが、近年、人口の急激な増加や食生活の嗜好の変化に伴い、自然の循環の枠を超えた過度の焼畑が進み、熱帯雨林の破壊の原因の一つとなっています。

これらの国では焼畑によるイモ栽培が食生活の中心でしたが、近年ではその味、そして保存可能期間の長さから米食の慣習が進んでいます。

米の自給の推進は農村部の人々の限られた現金収入を守るという効果もあります。

私たちは事前に繰り返し現地での調査を実施し、農村部の人々の稲作への熱意の高さを確認し、定地型農業を軸とした農村開発支援を行うことを決めました。

基金では、森林の保全と安定した食料生産、さらには雇用の確保を実現可能にする、農村部での定地型有機農法の普及を通してこれらの国への支援を続けています。

## ❖ パプアニューギニア

### これまでの活動

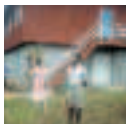
パプアニューギニアはオーストラリアの北東、赤道近くに位置する国です。これまで、プロジェクトパートナーである(財)オイスカと協働し、ラバウルのエコテックセンターでの「人づくり」を中心に支援活動を展開してきましたが、実際には技術を学んだ「志」の高い若者が村に帰るとスcoopつない現実が待っている、そんな話を聞き、定地型農業普及の「ひとおし」として精米機寄贈、精米小屋設置や有機肥料を作るための小屋の建設を所要所で実施しました。

### 2004年の活動

エコテックセンターでの技術者育成プログラム支援とモデル研修農場運営の支援を行いました。また、農村開発は同国も国策として注力していることから、同国政府(農業畜産省、貿易産業省、州政府等)から当基金の活動への全面的な支援を得ることができました。また、2月に同国ソマレ首相が来日された際には、首相と当基金の活動について意見交換を行い、同国での活動はさらに磐石なものとなりました。

### 今後の活動

2005年度も人材育成と施設の自立運営支援を実施していきます。また、これまでに設置した精米機などを自分たちで保守できるだけの現金収入と活動の持続性を得るため、緑のダイヤとも言われるパニヤ、健康増進に効果があると注目されているノニなどの作物開発も支援していきます。



## ❖ ソロモン諸島

### これまでの活動

ソロモン諸島はパプアニューギニアの東に位置する島国です。気候も土壌も農業に適した豊かな自然に恵まれた国ですが、90年代の民族紛争により外国からの支援が減り、貧困が加速した状態にあります。また、同国も人口圧による過度な焼畑が進んでいます。私たちは最大の人口を有するマライタ島のフィコ村をモデルビレッジとし、村人を中心に、プロジェクトパートナーであるNPO法人APSDとともにこれを実現するための施設(パーマカルチャーセンター)を建設しました。

### 2004年の活動

センターの施設拡充を行い、研修生が最大80名宿泊できる宿泊所の建設を支援。これにより、遠方からの研修生を受け入れる体制が整い、成功事例を水平展開していく仕組みが完成しました。また、センターでは取り組みの持続性を高めるため、水稲への挑戦・木炭製造による森林保全(生焚きによる木材消費が少ない)や、養蜂やノニ栽培などの換金作物への取り組みを始めました。私たちは現地でも同国のケマケザ首相と会談。基金の活動は同国政府によく認識されており、ソロモン政府としての全面的な支持をいただきました。



### 今後の活動

今後も、パーマカルチャーセンターを中心に、定地型有機農法の普及を支援していきます。モデルビレッジの成功例を各地に水平展開するための人材育成がその中心的活動です。また、灌漑設備の整備を支援していく予定です。